



▲潮干狩りなどで地域住民に親しまれている弁財ヶ浜



▲レンゲ田を復活させように行った種まき

地域の話

清田校区

次世代の子どもたちへ引き継ぎたいもの

今年度から新たな環境保全事業に挑戦を始めた
清田校区コミュニティ協議会から
お便りが届きました。

清田

校区では、今年度、新しく2つの取り組みを始めました。校区まちづくり推進計画の中で主要施策としている、里山づくり「レンゲ田」の実現と、海浜公園「弁財ヶ浜」の整備です。

なつかしいレンゲ田の復活

私たちが子どものころ、田んぼにはレンゲの花がきれいに咲いていました。それが近ごろでは見られなくなったことから、「子どもたちにもレンゲの花咲く田んぼを見せてあげたい」という思いを込め、レンゲ田を整備することとしました。

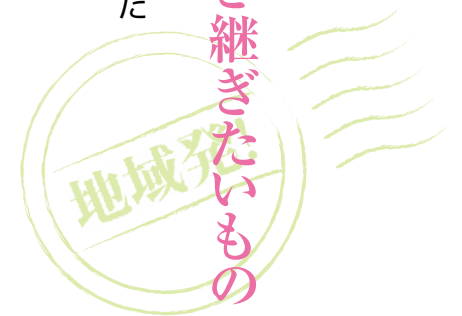
これは、稲刈後の田に景観作物であるレンゲの種をまき、花を咲かせるものです。子どもたちと高齢者がレンゲの種まきをすることで、次世代の子

どもたちが農業にふれ親しむ機会を設けます。そして、この地域に愛着を持ち、住み続けたいと思えるような環境づくりにつなげます。

地元の財産「弁財ヶ浜」

古田町の海岸は、弁財天がまつられていたため、古くから「べがい」といわれ、人々に親しまれてきました。現在でも、地域住民が潮干狩りや釣りに訪れるなど親睦の場となっています。また、夕日が美しく映え、冬の晴れた日には南アルプスや富士山を望むこともできます。

しかし、新しく堤防道路ができて旧堤防道路は使われなくなり、がけから土砂が流出したり、木々がうつそうとし、ごみが捨てられたりしています。そこで今年度、浜周辺の自然が再



▲弁財ヶ浜の環境整備

また、来年度事業として市の制度である市民提案型委託事業へ申請をしました。環境整備や散策道・避難道の整備を行うほか、土砂の流出を防ぐため、ユリノキを子どもたちや高齢者で植える計画をしました。市と連携し、地域でできることは地域で整備をしていきたいと考えています。

「身近なところにこそ、幸せが宿る。地域みんなを取り囲む環境こそ、大切」と考え、地域に誇りや愛着を持てるよう、また、子どもたちがこの地域で住み続けたいと思えるような校区にしていきたいです。